

■本庁舎の整備候補地（想定）について（案）

0. 本庁舎の整備候補地の検討にあたり

○本庁舎の整備候補地の検討にあたり、本市の都市づくりに関する方向性や位置付けを次のとおり整理する。

■第3次鎌倉市総合計画（平成8年3月策定）

○鎌倉らしさを継承する地域や、都市基盤を強化する地域、鎌倉の新たな魅力を創造していく地域など、それぞれの地域の個性を引き出す土地利用を図ります。特に、鎌倉地域周辺は、現存する歴史的自然的環境を保全し、歴史的遺産をさらに活用するとともに、古都保存法制定の経緯を踏まえた上で、周辺への景観や環境と一体となったまちづくりを進めます。

○鎌倉駅・大船駅周辺は、地域の特性を生かした都市拠点として整備していきます。深沢地域国鉄跡地周辺における土地利用は、都市基盤の強化や、多様な機能の導入により、新しい都市拠点として整備していきます。

【施策の方針】 …市街地整備の推進・目標とすべきまちの姿

- ・利便性の向上やまちの活性化をはじめ、市民が安全安心に暮らせ、災害に強く、快適なまちづくりの実現を図るため、計画的な土地利用や市民参画によるまちづくりに取り組んでいます。
- ・市民のまちづくり推進のニーズをくみとり、満足度を高められるよう柔軟に対応する持続可能な土地利用等の計画を推進しています。

○第3期基本計画では、計画の前提となる「計画の推進に向けた考え方」のひとつに行財政運営を掲げ、その中の具体的な項目として公共施設マネジメントの推進があり、適正な公共建築物の再編を推進するとしている。なお、平成26年度から平成28年度は、第3次鎌倉市総合計画第3期基本計画前期実施計画の期間中であり、この前期実施計画においては、公共施設再編事業を重点事業として位置付けることで、公共施設再編事業の計画的な推進を図っている。

■鎌倉市都市マスタープラン（平成27年9月策定）

○鎌倉駅周辺、大船駅周辺、深沢地域国鉄跡地周辺の3地区を都市拠点とし、都市機能の集積と、市民生活の向上を図る拠点として位置付けている。

【都市マスタープランの基本方針】2.骨格的な都市構造（2）安全で活力ある都市空間の形成 ①

拠点の整備

- ・鎌倉駅周辺、大船駅周辺、深沢地域国鉄跡地周辺の3地区を都市拠点とし、都市機能の集積と市民生活の向上を図る拠点として位置付けます。
- ・鉄道駅やモノレール駅、主要バス停の周辺などの日常生活の拠点となる地域について、施設の配置や役割、集約する都市機能等を検討します。

■鎌倉市公共施設再編計画（平成 27 年 3 月策定）

【公共施設マネジメント方針】

- ・公共施設を資産と位置付け有効活用する

【取組方針】

- ・他用途への転換、施設の複合化・集約化・効率化を図る
- ・遊休・余剰資産の売却等による、再編に必要な事業費の捻出も視野に入れた有効活用を図る

表 1 行政計画による都市基盤・都市拠点や資産に対する考え方

	鎌倉駅周辺	大船駅周辺	深沢地域国鉄跡地 周辺拠点	資産の 有効活用
	(現在地周辺)			
総合計画	地域の特性を生かした 都市拠点として整備	地域の特性を生かした 都市拠点として整備	新しい都市拠点として 整備	適正な公共 建築物の再 編の推進(第 3期基本計 画)。
都市 マスター プラン	鎌倉地域の中心及び生 活拠点として、歴史的 遺産、商業・観光、公 共公益・文化等の資源 をいかしながら、さら に機能を充実し、景観 の整備を図ります。	本市の広域拠点及び東 海道本線沿いの生活拠 点として位置づけ、横 浜市と連携し、広域的 な商業・業務、産業、 文化などの機能の充実 と基盤整備を図りま す。	東海道本線新駅構想を 視野に入れ、大船駅周 辺との役割分担・機能 分担に留意し、公共公 益施設、都市型住宅、 商業、業務、産業など の機能の充実及び基盤 整備を進め、鎌倉の新 しい拠点として整備を 図ります。	—
公共施設 再編計画	—	—	消防施設の再編先（大 船消防署・深沢出張所） スポーツ施設の再編先 （鎌倉体育館・大船体 育館・鎌倉海浜公園水 泳プール）	再編により 生まれる用 地などの有 効活用

図 将来都市構造と3つの都市拠点



【候補地の可能性】

現在地の他に、3つの都市拠点や低未利用地でまとまった市有地
(本庁舎が整備できる敷地規模(約15,000㎡以上)や周辺の市街地の状況)